

民族の誇りは勝とうが負けようが、 貫くべきもの

外交評論家として現在も幅広い活躍をされている加瀬英明氏の父上、加瀬俊一氏は戦前戦後の激動期を日本の外交の最前線で活躍した人です。初代国連大使としても著名ですね。2004年5月、101歳の天寿を全うされ亡くなりましたが、100歳になってから回想したものを英明氏がまとめたのが「明治から平成まで生きた外交官 あの時昭和が変わった 101歳最後の証言」（光文社刊、私家版、2004年6月30日刊）です。

今回と次回の二回に分けて、第三章「終戦工作秘話」から、「ミズーリ」号艦上での降伏文書調印式の部分を抜粋してお届けします。「戦争に負けても誇りだけは失いたくない」という一級的外交官としての気概が良く伝わって来ると思います。田母神さんの歴史認識論争で、「日本は無条件降伏した」と思っている方がいるかも知れないと考えて、この市販されていない一級外交官の証言の引用を考えました。

忘れられないミズーリ号での降伏文書調印式

私は日本の運命を変えた外交の多くの舞台を、踏んできた。

九月が巡ってくるたびに、テレビ局が私のもとに訪れてくる。今年も、そうだった。

なかでも、その一瞬一瞬を忘れることができないのが、五十九年前の九月二日に東京湾に浮かぶ、アメリカ戦艦『ミズーリ』号の艦上において催された降伏文書調印式だった。



赤坂プリンスホテルで行われた「加瀬俊一氏 お別れの会」には私も参列してご冥福をお祈り致しました

それは日本にとって歴史が、白熱した時だった。いまでは、あれからもう半世紀以上になる。『ミズーリ』号艦上に使いた日本全権団のなかで、現存しているのは、私一人になった。

あの日は九月のはじめにしては、珍しく涼しかった。灰色の重苦しい空に、雲が低くたれこめていた。（中略）

とにかく、明治の先人から私たちが受け継いできた日本の名誉を傷つけないように、この場を切り抜きたいというのが、私の偽らざる心境だった。

当時、私は外相秘書官、北米課長、英帝国課長、内閣情報部長、貴族院書記官を兼ねていた。このように多くを兼職

していたのは、終戦工作を進めるにあたって、自由に動き回るためだった。

降伏調印という場合は、こちらは国の柱であり、楯である軍が失われて、手足をもがれて降伏したのだが、それでも国には誇りがある。負けたからといって、誇りを失うということがあってはならないと、思った。

民族の誇りは勝とうが負けようが、貫くべきものだという気負いを持っていた。われわれが誇りとしているものだけは、生命にかえても失いたくないという、誇りを持っていた。たとえ、戦争に負けたとはいえ、これだけは譲ることができない、というものがあるはずだ。

それが、外交官としての誇りだった。そうでなければ、あのような場面を切り抜けることはできない。

もっとも、今日では日本が無条件降伏したと広く信じられているが、これはでたらめで、そのようなことはありえない。日本は連合国が一九四五(昭和二十)年七月に発したポツダム宣言を受諾して、降伏したのだった。

ポツダム宣言は日本の降伏条件を列挙したうえで、「われわれの条件は以上の如し」と結んでいる。日本軍の無条件降伏のみを、要求していた。しかし日本は、国家としては、条件付きの降伏を行ったのだった。



1945年9月2日、降伏文書の調印式に出席するため米戦艦「ミズーリ」号に到着した日本側代表団の重光葵外相（前列前）と梅津美治郎参謀総長（前列右）。二列目右端が加瀬俊一氏。

これはドイツが国家として無条件降伏したのと、まったく違っていた。日本は国家としての名誉を保って、降伏したのだった。

その条件付降伏をどのように生かすかということによって、これからどのような苦労があっても、日本の将来を切り拓こう、それが男児の本懐だという気持だった。

私としては、全世界の人々がニュース映画や、写真によって、この場面を見るから、敗戦国であっても、どのようにして威厳をもって行動し、相手にも敬意を払わせることができるか、という一念だけだった。後世の人々の眼も、そそがれていると思った。

『ミズーリ』号へ使いする前に、『ミズーリ』号について知っておいたほうがよいと思って、課員に海軍軍令部に問い合わせさせた。すると沖縄海域で、わが特攻機が一機命中したが、沈めることができなかったといった。

私は外交官として、平和が回復した後も、平和の場において特攻隊員の戦いを続けようという決意をいただいていた。英霊たちとともに、『ミズーリ』号の甲板を踏む覚悟でいた。（中略）

私は降伏はしても、精神は別のところにあり、日本は負けても、精神的には敗れていないという誇りを持っていた。そして、日本がこれから酷い目にあうかもしれないという、不安をいだきながらも、そうはさせまいという気概を持っていた。

もちろん、対米戦争は自存自衛のために追い詰められて、立ち上がった戦いだったが、何百年にもわたって西洋の植民地支配のもとにあったアジアを解放したのだった。

開戦三年後の大東亜宣言の原案は、重光外相と私が苦心して書いたものだった。

カテゴリ: コラム フォルダ: 指定なし   

コメント(5)

タグ: 加瀬英明 加瀬俊一 外交官 ミズーリ号 降伏文書調印 ポツダム宣言受諾 自存自衛 植民地支配 大東亜宣言

コメント(5)

コメントを書く場合はログインしてください。



Commented by **parkmount** さん

2009/01/05 15:17

あけましておめでとうございます。

戦前はもちろん、戦後もしばらくは、文民、軍人ともに自らの本分を理解し、覚悟というものを常に認めていた人物が多かったのに、今では希有なこととなりましたね。

私は日本の敗戦は、実は、戦後のGHQと日教組の教育破壊活動で始まったと、最近強く感じています。それが最初に述べた、日本人の質的劣化の根本的原因だと思っています。



Commented by **花うさぎ** さん

2009/01/05 19:14

To parkmountさん

>あけましておめでとうございます。

おめでとうございます。今年もよろしく願います。

>文民、軍人ともに自らの本分を理解し、覚悟というものを常に認めていた人物が多かったのに、今では希有なこととなりましたね。

TB頂いた「あなたに覚悟はありますか？」を拝見しました。その通りだなあ～と思いながらみてました。

>日本人の質的劣化の根本的原因だと思っています。

道徳教育を破壊し、義務責任より自らの権利の主張、これが行き行く先は国の崩壊です。国のお金(国民の税金)に頼る人間が増えれば大息な政府しかありません。即ち大増税ですね。



Commented by **暁** さん

2009/01/06 17:48

あけましておめでとうございます

最近ROMっているだけですが、阿比留さんのところから、時々こちらをのぞかせていただいております。

いつも積極的なエントリーとご活動、頭が下がります。

加瀬英明氏が「MOKU」という月刊雑誌(<http://www.moku-pub.com>)で「加瀬俊一とその時代(二十世紀最後の武士外交官)」という連載をされています。定期購読の雑誌で、店頭では入手しづらいようですので、ご存知かなと思って、書き込ませていただきました。既読でいらしたら、ご放念ください。

ご多幸とご健康をお祈りいたします。



Commented by **花うさぎ** さん

2009/01/06 20:10

To 暁さん

あけましておめでとうございます。

>加瀬英明氏が「MOKU」という月刊雑誌(<http://www.moku-pub.com>)で「加瀬俊一とその時代(二十世紀最後の武士外交官)」という連載をされています。

2009/01/07 12:42

おお～情報感謝です。知らなかったです。

記憶では加瀬英明氏は月刊日本の編集も担当していたのではないかと思います。多分、ご指摘の連載の方がもっと詳細な記述がされているような気がしますね。ありがとうございました。



Commented by **hirobu** さん

こんにちは。

ここに書いていいことなのかどうか、迷ったのですが、他に見あたらなかったので、こちらに書かせていただく事に致しました。間違っていたら、すみません。

現在、文部科学省が、

「高等学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領の改訂案等の意見公募(パブリックコメント)」

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/12/08121911.htm

「教科用図書検定規則の一部を改正する省令案等に対する意見公募」

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?OBJCD=100185>を行っていて、近く締め切られます。

私は、「近隣諸国条項」(検定基準)の削除や、「竹島」「自衛隊」(指導要領)の明記などを求めたいと思っていますが、そのほかにも、多くの人に意見を寄せてほしいと思っています。

もしよろしかったら、ホームページで呼びかけていただけませんか？

①「義務教育諸学校教科用図書検定基準案について」

意見公募締切 平成21年1月24日(土)

[フォーム]

送信先 : pckentei@mext.go.jp

文部科学省初等中等教育局教科書課企画係 御中

「義務教育諸学校教科用図書検定基準案について」

②「高等学校・特別支援学校学習指導要領改訂案等について」

意見公募締切 平成21年1月21日(水)

[フォーム]

送信先 : kyokyo@mext.go.jp

文部科学省初等中等教育局教育課程科教育課程企画室 御中

「高等学校・特別支援学校学習指導要領改訂案等について」

ご注意

※氏名・性別・年齢・職業・住所・電話番号の明記が条件です。

※メールの場合、ウイルス対策から添付ファイルは開封されません。

本文に意見を記入してください。

※一人で複数の意見応募が可能です。

※1メール・1意見としてカウントされてしまいます。複数意見がある場合は、案件ごとにメールを分けて送付して下さい。

※意見が1000字を超える場合には「要旨」を付けてください。

よろしくお願い致します。